

事務事業チェックシート

評価年度	H24	H25	H26	対象外
		○		

事務事業No 531 事業名 準用河川改修事業（前代川）

分野別目標	4	自然環境と都市基盤が調和した快適なまち
政策	3	住環境の整備
施策	2	河川・水路の整備
取組	2	河川の改修・機能維持

事業種別	継続	主な事務事業	○
事業期間	平成21	～	平成30
事業実施の根拠法令			
関連個別計画			
担当課・担当課長 (Tel)	河川港湾課	中原 良博 (435-1090)	
関連課			

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		土木費	
	項		河川費	
	目		準用河川改修事業費	
	大事業		準用河川改修事業	
事項		準用河川改修事業（補助・単独）		

「3つのキーワード」との関連性

いのちを守る	人と文化を育てる	ふるさと力を高める	該当せず
○			

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容				
	前代川が合流する和田川への放水路の新設及び河道改修を行い、吉礼地区の浸水被害を解消する。	吉礼地区の浸水被害を解消するため、合流する和田川への放水路の新設及び河道改修を行う。事業の流れとしては、設計→測量→用地取得→工事→竣工				
実施内容	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	河道計画検討		用地購入956㎡ 物件補償1件	用地購入720㎡ 物件補償2件	用地購入1,850㎡ 物件補償2件 残地補償2件 護岸改修50m	

2 事業コスト

	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	計画	決算	計画	決算
事業費		12,936			49,846	43,454	113,558	78,517	314,024	
伸び率 (%)	-	-	-	-	-	-	127.8%		176.5%	
人件費	常勤職員	17,403			17,403	21,124	21,124	20,840	20,840	
	非常勤職員									
	小計	17,403			17,403	21,124	21,124	20,840	20,840	
国庫支出金		12,936			16,000	13,890	37,110	25,510	98,671	
県支出金										
市債					30,900	26,500	71,200	49,400	193,900	
その他										
一般財源（税等）					2,946	3,064	8,520	6,378	23,973	
所要人数	常勤職員	2.27			2.44	2.8	2.8	2.81	2.81	
	非常勤職員									
主な予算内訳	工事請負費65,000千円 公有財産購入費109,200千円 補償、補填及び賠償金80,464千円									

3 目標及び実績

活動指標	指標名及び達成状況					平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	準用河川（前代川）の改修延長（累計）	年度目標値							0	0
実績値								0	0	
単位		m	全体目標値	500	全体目標達成度	0.0%	年度別達成度		0.0%	0.0%
準用河川（前代川）の執行額	年度目標値							49,846	113,558	314,024
	実績値							43,454	78,517	
	単位	千円	全体目標値	477428	全体目標達成度	74.6%	年度別達成度		87.2%	69.1%
成果指標	年度目標値									
	実績値									
	単位		全体目標値		全体目標達成度		年度別達成度			

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか	○	急いで取り組む		中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性(担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>準用河川前代川は、大雨時には河道の流下能力不足、放流先の和田川の内水排除不足により度々浸水被害が発生しており前代川の早期改修は流域住民の悲願である。和田川への放水路の新設を行い前代川流域の大幅な浸水被害の解消を目指す。</p>
<p>「見直し」 「改善」案</p> <p>※上記、「今後の方向性」において、「事業内容」、「コスト投入」の方向性が共に「現状維持」以外の場合は記載</p>	<p>前代川改修事業は、当初平成32年度の完成予定であったが、昨年6月の豪雨で甚大な被害があり、その後流域住民から早期完成の要望があり、工期の短縮が出来るように見直した結果、2年間の前倒しをすることにより平成30年度の完成を目指す。</p>